

	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
<p>学校教育目標</p> <p>人間尊重の精神に徹し、自ら考える力と、創造的な知性、及び実践力を養い、調和のとれた人間の育成を旨とす。</p> <p>『自主・自律の精神に徹する』</p> <p>『真摯な態度で自己目標の実現に努める』</p>	<p>・「学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり」については、先生方一人ひとりが授業内容の工夫を続け、学ぶ楽しさを実感できる授業を行っている。公開授業、体験入学等のアンケートや学年末の授業アンケート、匿名性を担保した授業評価の意見からもより良い授業を行う工夫がみられている。しかし、公開授業を行っても見学者が少なかったり、公開授業を利用した職員研修(授業見学)を実施しながかなか授業見学できないなど課題も残る。進路については、進路係や学年を中心に手厚い指導を行ってきた。多くの就職希望者が一次で内定を得た。大学・短大においても推薦やAO入試を利用して合格した生徒も多数いる。しかしながら、大学・短大における一般の入学試験、二次以降の就職試験等には受かりにくいなど厳しい現実もある。実際に基礎学力の不足が否めない。また、全学年で小論文対策等を行っているが、進路意識ができていないため、厳しい部分もある。進路意識を上げる工夫をしていく必要がある。</p>	<p>・「学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる授業づくり」は、教員個人の研修・努力によるものである。しかし、学習面・生活面において、様々な課題を抱えた生徒たちが少なからずいる本校では、個人の努力だけで解決できる問題は少ない。問題解決に向けて、学年会や教科担当者会などで情報を共有するとともに、各種研修で個人のスキルアップを図っていくことが重要である。進路についても、生徒の希望を聞き出し、具体的な形にしていくのは、進路係・担任の一斉指導だけで効果を上げることは難しい。総合的学習の担当者、クラブ顧問などの協力を得て、生徒一人ひとりに寄り添い、指導していく必要がある。次年度以降も情報の共有化を図っていききたい。また、本校のコースの特色を生かした進路指導も必要である。</p>
<p>中長期的目標</p> <p>学校教育目標ののっとり、地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成を旨とす。</p> <p>1 地域に開かれた学校づくりを進め、地域の信頼を高める。</p> <p>2 自らが学ぶ学校を誇りとし、自己目標の実現に向かい主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>3 全人教育を進め、クラブ活動など生徒の自主活動をさらに活性化することをめざす。</p>	<p>・「落ち着いて生活できる校風づくり」については、生活指導係を中心に学校全体が意思統一を図って取り組んできた。学年会や職員会で情報交換をし、情報を共有することで気になる生徒に声かけを行うことができている。そのことが、いじめを防止、早期発見につながっている。また、校内美化に努め学習環境を整えている。このことも、全学年が落ち着いて授業に取り組める要因の一つである。今後もしっかりしていきたい。</p> <p>・「生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり」は生徒会係を中心として、生徒の自主的な活動を支援してきた。募金付き自販機を導入し、諏訪湖アダプトプログラムおよび日本聴導犬協会への募金活動や、エコキャップ回収活動による、ワクチン支援など、様々な運動を生徒会役員中心に行っている。また、クラブ活動においても多くの生徒が加入し日々活動している。運動系のクラブだけでなく文化系クラブも盛んである。高大連携を通じて、進路意識を高めるとともにプレゼンテーションを実施し、自己の表現力と学習への自信を深めた。今後継続していききたい。</p>	<p>・「落ち着いて生活できる校風づくり」については、今年度以上に生徒一人ひとりの情報を共有し、様々な教員からの声かけを行っていききたい。学校全体で、よりしっかりした指導体制を作っていく必要がある。環境美化も含め、今後も学習環境の向上に努める必要がある。</p> <p>・「生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり」は、生徒会活動については、エコキャップ回収活動を継続的に行い、ワクチン支援を行っている。今後それらの活動を続けるとともに、募金付きの自販機による募金活動などにより社会貢献への意欲をさらに養うことに努める。今後どのように継続させ、発展させていくのが課題である。クラブ活動については、顧問の指導力向上も含め生徒個々の能力が発揮できるように更に指導を高めていく。高大連携やひろがれわたしなどの活動や日々の学校生活の中から、生徒自身が活動を通じて自己有用感を高めていくように努める。</p>
<p>今年の重点目標</p> <p>1 学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり</p> <p>2 いじめのない落ち着いた校風づくり</p> <p>3 生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり</p> <p>4 生徒の人権を尊重し、保護者・地域に信頼される学校づくり</p>	<p>・「生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり」は生徒会係を中心として、生徒の自主的な活動を支援してきた。募金付き自販機を導入し、諏訪湖アダプトプログラムおよび日本聴導犬協会への募金活動や、エコキャップ回収活動による、ワクチン支援など、様々な運動を生徒会役員中心に行っている。また、クラブ活動においても多くの生徒が加入し日々活動している。運動系のクラブだけでなく文化系クラブも盛んである。高大連携を通じて、進路意識を高めるとともにプレゼンテーションを実施し、自己の表現力と学習への自信を深めた。今後継続していききたい。</p> <p>・「保護者・地域に信頼される学校づくり」については、「ひろがれわたし」「生徒会のボランティア活動」「文化系クラブの地域交流」など努力をしてきている。今後も地域に支えられる学校を目指し、様々な取組みを模索しながらチャレンジをしていきたい。</p>	<p>・平日にアルバイトをしている生徒が多い。4月の面談週間などを通して、クラブの加入を促進させる必要がある。</p> <p>・保護者に対する広報活動を行う必要がある。昨年度から保護者に一斉メール配信ができるようにした。この一斉メール配信を有効に使い切れていない。次年度以降、様々な情報を一斉メール・HP等を通して、保護者に届けたい。また、一斉メール配信の加入率を上げるような方策を考える必要がある。</p>

《教育活動領域》

対象	対応項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導		1 2 3 教養フロンティアコースの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・信州豊南短期大学との高大連携に際し、関係する分掌・教科で、連携の計画・実行を行うことができたか。 ・ミックスホームルーム制実施2年目で、従来のコース別クラス制との比較検証はできたか。 ・学年・進路係と連携をとりながら、生徒一人ひとりの進路実現へ向けた系・講座の選択をさせる指導ができたか。 ・2・3年系別講座編成に対して、スムーズな編成と工夫ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科、家庭科を中心に、順調に立案・計画・実行することができた。 ・以前と比較し、学習態度や成績にミックスホームルームの成果が見える。 ・教員配置等により、個人の要望に完全にマッチしたとは言えないが、現状では十分な対応ができたと言える。 ・学年の意見、要望を十分に考慮した講座編成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該委員会を中心に、更にあり方の検討が必要である。 ・年度末には、当該学年による具体的な検証を実施する必要がある。 ・教員定数・配置等、現状ではいかんともしがたいものがある。 ・次年度以後、総合学習とキャリア教育の充実が図られるので、生徒の進路意識を更に高められると期待する。
		1 2 3 健康スポーツコースの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・松本大学との高大連携の計画・業務遂行をスムーズに行い、内容をより充実させることができたか。 ・2学年ミックスホームルームに於いて、コース独自の科目展開による成果はあったか。 ・コースの特色をいかした進路実現を行える少人数講座や授業内容の工夫ができたか。 ・1学年ミックスホームルームに於いて、健康スポーツコースとしての独自性を維持することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科を中心に、順調に計画立案・実行することができた。 ・一定の成果はあるが、更に今後、展開の仕方は検討する必要がある。 ・従来通り。 ・あらためて自身の学習、進路等を多角的に考えることでコースの独自性を維持できるものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該委員会を中心に、更にあり方の検討が必要である。 ・（成果と課題）欄の通り。 ・コースの特色を生かす進路の方向性は、今後の将来構想委員会での検討を受けて考えて行く必要がある。 ・次年度は、全学年ミックスホームルームの形態になる。あらためて多方面での検証が必要である。
		1 4 キャリア教育を軸にした総合的な学習の時間の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・進路係と連携しながら、1年次の地域体験学習「ひろがれわたし」を充実させることができたか。 ・3年次の総合的な学習の時間での進路学習を行った成果があったか。また、個人指導において担任や進路係と情報交換を丁寧に行うなど生徒一人ひとりにあった指導が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務・進路・学年が連携して「ひろがれわたし」を充実した形で行うことができた。生徒の満足度も高く、進路意識向上に繋がった。 ・3年生の総合的な学習の時間では、前年度の反省を踏まえ、バランスの良い指導ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、態勢を変え、「ひろがれわたし」をより進路学習に密接したものに改善する。 ・総合学習のあり方も、学年主導から、係中心に指導体制を改変する。
		1 3 4 授業の改善と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「丁寧でわかりやすい授業」を目指し、生徒の学習意欲を喚起できるような授業内容の工夫を行うことができたか。 ・保護者や地域に対して授業公開をおこなったり、教師間の授業公開・研修をおこない、授業改善に向けた努力ができたか。 ・各学年・クラスや各講座などの情報交換会などを行い、生徒理解を深め、個々の授業展開を考える契機にすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教師が生徒の実態に合わせながら授業を展開している。教材にも工夫を凝らし、独自のプリントを用いて生徒の意欲向上を図っているが、更に内容の充実努力しなければならない。 ・年間計画に基づき、授業公開を行っている。その際、教師間で授業見学をしようと呼びかけている。実施時期や方法は今後更に検討の必要がある。 ・毎週の学年会において、クラス、講座、生徒について情報交換がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会で、授業内容の充実等検討後、職員会に提示して、全職員で協議を深め、意識を高めて行く。
		3 4 基礎学力の補充と進学希望者の進学意欲を向上させる取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・補習等の授業外での学習機会を作ることができたか。 ・進路係の取り組みを踏まえ、本校の生徒の状況を理解し、基礎学力の補充について具体的に取り組むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木曜日の進学補習、長期休業中の補習、また各種検定に向けた補習も行った。 ・個々の教員の努力してきた結果として、下記進路係の項にあるよう、具体的な数値結果が表れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が恒常的に学習する態度を養うために、更なる対策を検討する。 ・上記「授業の改善と工夫」欄の通り。
進路指導		1 3 4 基礎力診断テスト全校実施3年目における、より効果的な生徒の学力把握と全体的な学力の底上げ。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果の分析と職員・生徒への発信が充分できたか。 ・フィインシステム導入3年目における、より効果的な活用ができたか。またフィインシステムに関する研修会ができたか。 ・基礎力診断テスト結果のD3ランク生徒解消にむけての取り組みができたか。 ・中学までの学び直し、学力がつく授業展開の研究ができたか。 ・四大・短大・看護医療系希望者の指導強化ができたか。 ・センター受験者の拡大（四大・短大進学者への働きかけ）ができたか。 ・英検・漢検・数検・P検の推進ができたか。 ・就職希望者に対するSPI・適性検査対策ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果を過去と比較・考察し進路便りで状況を教師や生徒に伝えた。 ・フィインシステムを利用して基礎力診断テストの結果をダウンロードした。 ・基礎力診断テストの右肩下がりの傾向が平行になった。D3ランクの生徒はまだ多い。 ・学び直し・学力がつく授業展開に関しては進路便り等で訴えた。 ・4大・短大・看護医療系の指導は主に総合のコース別で対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果は向上している。今後実力判定テストなど、1ランク上の模試の導入も考えられる。また一般入試や就職時の一般教養試験に耐える実力をつけるよう授業レベルを上げることが必要である。そのために、センター問題の利用を考える必要もある。

対象	対応項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
進路指導	1 3 4	進路意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 「進路室便り」の発行、「進路の手引き」の活用ができたか。 保護者向けガイダンスの強化ー保護者向け進路講演会の設定、各種資料の提供ができたか。 1年次の地域体験学習「ひろがれわたし」、2・3年次の総合学習でのキャリア教育の実施が十分にできたか。 進路室の機能充実（進路資料の整理・使いやすいレイアウト）ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりは月1回発行した。進路の手引きは3学年で使った。 ガイダンスは各学年で対応した。 キャリア教育は例年並みであった。 進路資料が多すぎて対応に苦労した。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は進路係の仕事に総合が入る予定である。計画中の進路計画が機能できるものに改訂しなければならない。
		小論文指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> A.O入試、推薦入試、就職希望者の生徒の個別的な指導が十分であったか。 総合学習・授業における小論文全体指導ができたか。 信州豊南短大との連携でより効果的な小論文指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導は主に総合のコース別に対応した。 小論文指導での高大連携授業は現在委員会で計画が進行中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学習を含めた進路計画全体のなかで見直していく必要がある。
		就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援コーディネーター制度が終了したのに伴い、地域の雇用開拓促進員との連携、求人への拡大ができたか。 学校として具体的な求人の開拓ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年は進路就職担当だけで対応した。社会情勢もあり著しい好成績であった。 学校としての求人開拓は今年は必要がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度はもっと厳しい就職情勢を覚悟しなければならない。
		その他	<ul style="list-style-type: none"> 進路会の定例化3年目にあたり、各学年間の連絡等がスムーズに行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 係会は毎週持つべきである。
生活指導	1 2	対話の重視による生徒理解と、家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに、生徒との対話がなされているか。生徒の直接、またはタイムリーな声かけは行われているか。 家庭との綿密な連絡がとれ、ガイドラインの周知や反省の手順に従って指導について保護者の理解や協力は得られたか。 関係者間の綿密な連携により相談活動、カウンセリング活動が効果的になされているか。 生徒・保護者に向けた「まごころ」での呼びかけや通信の作成が十分に行われているか。 校則や身だしなみについてPTS協議会への投げかけを行うなど、生徒との対話の機会をはかることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との対話はその都度持てる環境にあると思われる。 担任をはじめ家庭との連絡を密にとることができ、必要に応じて学校としても適切に対応できた。 学年会、職員会などを中心に職員間の情報交換が適切になされていた。 「まごころ」発行は行うことはできたが、家庭まで届くかどうかという点では改善の必要がある。 身だしなみについては職員が協力して生徒に対して当たることができてきている。生活指導としての方針と規律内容をよりわかりやすく、職員間で理解できるものにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒についての情報を学年会、職員会を中心に職員間で共有できる環境を保ち続けていく必要がある。 「学校生活の規律」をわかりやすく職員・生徒・保護者へ示す必要がある。 「まごころ」の内容を保護者へ知らせるために、何らかの方法を検討してみる。（可能な範囲でHPに掲載など）
		学習習慣・学習環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律項目について指導の徹底ができたか。 遅刻、欠課について生徒に対しての指導は十分できたか。 上記の指導において、科目担当者から担任への授業のようすを伝えることが出来ているか。（生徒の授業のようすについて情報伝達が出来ているか。） 	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律については概ね守れるようになっている。携帯電話についての規律も引き続き検討していく必要がある。 遅刻・欠席の把握については校務ベースへの速やかな入力が必要である。それによって中抜けについての対応もとりやすくなる。 欠課の連絡等、授業担当と担任の連絡は概ね問題なく行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「携帯電話が鳴ってしまった時、名乗り出られる環境作り」も考えるべきタイミングなのかもしれない。
		身だしなみ指導の徹底と生活マナーの向上など規範意識の確立 職員態勢の確立	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ(頭髪・服装)検査は成果があったか。 進路内定後の生活の指導は効果が上がったか。 通学時のマナー、交通ルールについて指導が出来たか。 ゴミ・缶のポイ捨て、上下履きの区別等の生活規律についての指導はできたか。 盗難をなくす指導は効果を上げたか。 いじめのない学校作りができていないか。 全職員が足並みをそろえて生徒に対しての声かけや、集団的・組織的に指導にあたる態勢が作れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に学年で身だしなみ検査を行ってきていることにより、生徒も指導に従う土壌ができてきている。ただ、全体での足並みを揃えるためにも生活指導係からの指針をしっかりと示す必要がある。 進路内定後の3年生については学年の先生方の指導により大きく崩れることはなかった。 ゴミ、上下履きは大きな問題はなかった。 盗難については何件か起きてしまった。より一層、貴重品管理意識を高める必要がある。 いじめについては事例はあがってはいないが、「ないからよい」のではなく、これからも生徒1人ひとりとのお話を重視し、自己肯定感が持てる環境づくりを心掛ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみについては、過去から段階的に改善してきた経緯がある。現状を考えると登下校時の服装についても新たな検討が必要と思われる。 盗難については、貴重品管理の意識が多岐の場面で高まっているが、「皆無」を目指して指導を続けていくべきである。
特別支援教育	2 3	特別支援教育の確立	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について学校全体で共通認識を得ることができたか。 対象生徒の状況把握に努め、職員間で情報を共有し、適切な対応ができたか。 学校・家庭・医療機関・地域の支援センター等と連携しながら支援がすすめられたか。 対象生徒が将来の就職に結びつく進路選択ができるよう、早い段階からの支援計画を立案しすすめられたか。 対象生徒への有効なトレーニング方法について職員が研修する機会を設け、支援の体制を整えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が共通の意識で取り組めるよう、個々のケースにおいて、支援の目標と具体的取り組みを教科担当者等と設定した。 アンケートや教科担当者会を通し、生徒の状況把握と教員間の情報共有に努めた。今後は、係に集約される情報に、職員が必要ときに触れられる体制作りが必要である。 花田養護学校より、支援の内容について助言をいただき、生かすことができた。 個々の進路希望を勘案しつつ、また進路希望が明確でない場合も社会性の向上を観点に、支援の内容を設定し取り組んだ。 SSTに関する職員研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が成果に繋がりがりやすくなるよう、生徒自身の問題意識を喚起する必要がある。 支援する職員が生徒の成長を実感できるような方策を検討する必要がある。

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
生徒会	3	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の活性化を目指し、充実したクラブ活動が行えたか。 ・生徒の主体的な活動を職員全員で支えることができたか。 ・式典の際などに、全校が積極的に校歌を歌うよう、働きかけることができたか。 ・生徒・保護者・教職員による全校PTSの企画・運営を通じ、生徒の成長を促すことができたか。 ・社会貢献に繋がる活動としてエコマネージメントへの取り組みをすすめることができたか。 ・生徒が主体になって計画、実行する文化祭において適切な助言や指導をすることができたか。 ・生徒一人ひとりが挨拶をしっかりと行うことができたか。 ・生徒会スローガンのもとに、具体的活動を展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部、文化部ともに、日々の活動を通じて自己を見つめ、大会や発表会等の目標に向け活動の充実を図ることができたものとする。 ・東高祭に向け、生徒主体で全校の意識を変えていく取り組みを大切に考え、助言してきた。生徒会役員を中心に、しっかりと整列させる習慣が一定程度定着した。 ・全校PTSに向け、本質的な部分で全校生徒に呼びかける必要がある問題点を見つめ、分科会運営準備やイメージ討論などを積極的にやってきた。ここで挙げられた課題を、いかにして全校生徒直接の課題として認識させるかをPTS後の課題として掲げ、生徒会としてできることを考え、行動した。 ・エコマネージメント領域では、募金付き自動販売機による諏訪湖アダプトプログラムおよび日本聴導犬協会への募金活動を継続した。また、エコキャップ回収活動も行い、ワクチン支援も行った。直接的な募金活動でないため、生徒一人ひとりが「支援」の実感を得るのは難しいが、その意義を広く呼びかけ、社会貢献への意欲を育てられたものとする。次年度以降、引き続き取り組みたい。 ・次年度の東高祭に向けて、生徒主体を柱に助言援助を心掛けた。3日間の文化祭を成功させるべく、3月までに可能な限り前進したい。 ・挨拶のできる生徒が年々増加していることは良い傾向にある。しかしマナー面では大幅な意識改善が求められる。PTSを中心今後も啓発を続けることが課題である。 ・生徒会活動での諸場面を通じ、得たものや感じたことなどを踏まえて自分の意見を述べ、同時に他者の意見を聞きながら会を進めていく知力を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の活性化については、引き続き具体性を持って考えていく必要がある。各クラブの活躍はもとより、クラブ間の繋がり高め、お互いにより良い影響を与えあえる空間作りへの工夫が求められる。 ・校歌については、大切にすることを育てたい。今年度はLHR等を利用して校歌指導を行っていたいただいた学年もある。次年度へ向け、全校レベルで意識を改善していく取り組みが必要である。 ・PTS協議会および全校PTSの意義を全校生徒一人ひとりに感じさせ、自らの意見から学校づくりに貢献する意欲を育てたい。そのための工夫としてLHRなどの活用が考えられる。 ・エコマネージメントの取り組みから、社会貢献につながる活動を発展させていけるよう努力したい。 ・文化祭その他各種行事についても、多くのご協力ご助言を仰ぎながら、全校生徒が充実感を得られる活動となるよう支援したい。また、その活動を通じて生徒の自主性、計画性、協調性を高める指導を心がけたい。
		3 4	ボランティア活動の紹介と奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・花田養護学校との交流を充実させることができたか。 ・ラムラム広場など、地域から要請のあったボランティア活動を充実させることができたか。 ・文化祭での東日本大震災支援、ミャンマー難民支援への取り組みの充実は図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラムラム広場および花田養護学校との交流への参加状況は良好で、良い経験を積むことができた。主に福祉系への進路を考える生徒が参加者の中心であるが、それ以外の生徒にも広く認知を広めて参加をうながし、活動を通じて新しい自分の発見につなげ、自ら考えて行動する力の定着に繋げていくことが望ましいと考える。

《学校運営領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策	
学校運営	1 3	わかる授業実践のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人ひとりが指導力向上に努めるとともに指導方法について各教科・各学年等で意見交換できる機会を作ることができたか。また、学習指導力向上の講演会等を企画するなど指導力向上に努めることができたか。 ・学校評価活動を通じて、教科内で得られた授業の問題点等について教員相互に意見交換できる機会をつくるとともに、学校全体のものにすることができたか。 ・必要に応じて研修の機会を設けることが出来たかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各先生方一人ひとりが指導力向上に努めて頂いている。また、各教科、学年会など様々な場面で生徒の情報交換を行うことが出来ている。今後も続けていく必要がある。 ・授業見学を行う機会が少なかった。公開授業(12/18-25)を利用した職員相互研修を実施したが、多忙化の中どのように取り組んでいったらよいか検討する余地があった。今後、研究授業以外でも授業が見学出来るようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各教科・学年等で情報交換を行うなど先生方一人ひとりが指導力向上にご尽力して頂きたい。また、研究授業を行うなど様々な場面で研修の機会を増やしていきたい。 ・特別支援の研修だけでなく、進路や人権学習等に関連した研修も考えたい。 	
		4	体験入学・生徒募集の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学の内容の充実、広報の充実を図ることができたか。 ・公開授業等を内部のものだけにせず、ホームページ等の広報活動を通じて地域・保護者に発信することができたか。 ・中学生やその保護者に、本校の入試について十分理解が得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学については、時期・やり方など概ね好評評価を頂いている。12月頃から学校見学を希望する中学生が多い。今後も対応をしていきたい。体験入学・中学校訪問と先生方大変なご苦労をお掛けした。その結果として毎年前期選抜の高倍率を頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も近隣の普通科の高校(下諏訪向陽高校)と体験入学が重なってしまった。中学校側から被らない日程でお願いしたいという要望を頂いている。検討をしていきたいが、体験入学の内容等を考えると現行行っている時期が妥当だと考える。また、学校HP・携帯HPを通じて情報を発信するとともに、学校案内や学校ポスターを作成して配布した。今後はそれ以外のメディアの広報の充実を図っていく必要があるか検討していく。
		2 4	情報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の情報システムに対して、教職員がスムーズに活用できるように工夫することができたか。 ・職員の情報リテラシーの向上に努められたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務ベースなど使い勝手がよいと思われる。しかし、担当者の負担軽減を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の負担軽減を考えていきたい。ネットワークシステム導入に当たり、さらに担当者の負担が増加した。今後も「情報推進担当者」を置くことになるが、その担当者が負担増にならないように各先生方一人一人が情報活用に一層の努力をして頂きたい。
		2 4	敷地・校舎の安全管理体制の確立と徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備の一環として、行事や集会時の校舎の安全管理にこころがけ、見回り、放送などの注意喚起を確実にこなうとともに、生徒、職員の安全管理の意識向上をおこなうことができたか。また、敷地内の車の乗り入れのマナーに対する注意喚起ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に管理運営されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、日々の安全意識の向上に努めるとともに、防災対策や不審者への対応など危機管理の面からも生徒・職員の安全管理意識を向上できるように心がけていきたい。